

新興国レポート

中国 米国債保有 再び首位へ

米国へのけん制材料が

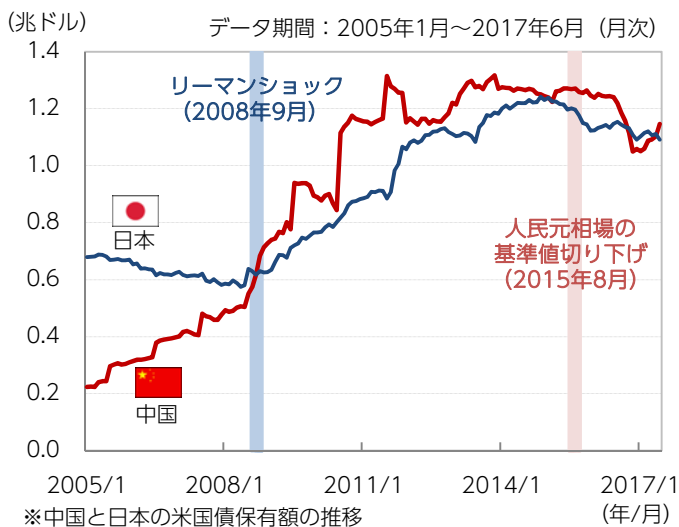
- ▶ 中国の米国債保有額が、9ヵ月ぶりに首位となった。昨今の人民元相場の落ち着きが要因か。
- ▶ 「債権者」の立場が、北朝鮮や貿易不均衡をめぐる米中関係で、米国のけん制する材料となるか。
- ▶ 米追加利上げが見込まれているなか人民元相場の下落圧力は強く、外貨準備高は減少傾向か。

中国の米国債保有額が、2017年6月末に9ヵ月ぶりに日本を抜いて首位となりました。昨今、下落していた人民元相場が落ち着きを取り戻し、外貨準備を取り崩してドル売り・人民元買いの市場介入をしなくても済むようになってきたためとみられています。

- ✓ 中国は2000年代に入り、輸出で稼いだ巨額のドルを外貨準備としてため込み、その大部分を米国債で運用してきた。米国債の保有額は2008年9月に初めて日本を抜き世界1位となった（図表1）。
- ✓ 中国人民銀行が2015年に取引の基準値を切り下げたことを機に、人民元は大幅に下落。外貨準備を使い大規模なドル売り・人民元買い介入を余儀なくされた（図表2）。
- ✓ 同行の通貨防衛策が功を奏し、人民元相場は2017年に入り上昇傾向を強めており（図表3）、ドル売り・人民元買い介入は大幅に減少している。増加した外貨準備で米国債への投資を拡大。
- ✓ 中国側は米国に良好な経済貿易関係の維持を求めているも、米国側は知的財産権の侵害を理由に対中貿易の調査を進める見込み。核・ミサイル開発をエスカレートさせる北朝鮮に対し、石油供給停止などの制裁措置に踏み出さない中国に対する不満が背景。
- ✓ 中国は米国に対し、北朝鮮問題と経済を切り離すように求めており、最大の「債権者」という立場を利用し、今後、米国をけん制する可能性もある。

米追加利上げが見込まれるなか人民元相場の下落圧力は強く、外貨準備高は減少していくものとみられます。一方で、仮に中国が米国債の保有額を大きく減らすと、米金利の急上昇など不安定な動きが想定されます。

図表1：中国の米国債保有額が日本を抜く



出所：図表1～3はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

図表2：過去に大規模な人民元買い介入も



図表3：人民元相場は2017年に入り上昇傾向

